



平成28年 7月15日

国土交通省 中部地方整備局 清水港湾事務所

清水港・みなと色彩計画推進協議会

清水港・みなと色彩計画 25周年記念事業

「清水港 未来を創るアートプロジェクト」

～日の出岸壁改良工事とのコラボ企画を開催します～

1. 清水港・みなと色彩計画とは

清水港・みなと色彩計画は、世界に開かれた静岡の海の玄関口である清水港において、富士山と調和した人工景観を創出するため、平成3年度に策定されたもので、これに基づいて、市民・企業が主体となって美しいみなとまちづくりの活動が継続的に進められています。色彩計画は、これまで清水港の進化と共に歩み続け、今年で四半世紀、25年の節目を迎える地域を代表する取組となっており、平成27年度国土交通大臣表彰「手づくり故郷賞大賞部門」に認定されています。

2. 「清水港 未来を創るアートプロジェクト」の概要

今般、海の日（7月18日（月））のダイヤモンド・プリンセス号の寄港を皮切りに、色彩計画策定25周年を記念するとともに、清水港の今後の更なる発展を願った企画事業として、『清水港 未来を創るアートプロジェクト』を開催してまいります。

このプロジェクトは、清水港に寄港する大型クルーズ船の受入環境を改善するため、7月19日より現地着手する「日の出岸壁改良工事」と連携したコラボ企画となっています。乗船客や一般市民の方から清水港に対する様々なメッセージを色彩カードにお寄せ頂き、これを工事期間中に設置される工事用擁護ボードにアートとして貼付・掲載します。美しい清水港の姿を未来につなげるためのメッセージが港を訪れる人の目にふれ、景観の一部として記録される取組です。

この機会に清水港に訪れ、『未来の清水港に向けたメッセージ』を書いてみませんか。

(添付資料)

別紙ー1 清水港 未来を創るアートプロジェクト

別紙ー2 平成28年度 清水港日の出地区岸壁改良工事 工事概要

別紙ー3 生産性革命 by インフラ ～大型クルーズ船の受入環境改善（清水港）～

3. 配布先： 中部地方整備局記者クラブ、専門紙記者会、静岡県政記者クラブ
静岡市政記者室、港湾空港タイムス、港湾新聞、日本海事新聞、海事プレス

4. 問合せ先：

工事等に関すること

国土交通省 中部地方整備局 清水港湾事務所 企画調整課 堀池

電話：054-352-4148 FAX：054-353-3072

清水港未来を創るアートプロジェクトに関すること

清水港・みなと色彩計画推進協議会事務局(静岡市清水港振興課)

電話：054-354-2432

Create the Future-Port of Shimizu Color Harmonization Plan-

清水港 未来を創るアートプロジェクト

7月18日 月祝
海の日

世界に開かれた静岡の海の玄関口・清水港では、港の進化と共に歩み続けた「みなと色彩計画」により、美しいみなとづくりが25年間展開されています。

富士山と調和した港湾景観は、地域総力を挙げ、OnlyOneの風景を創りあげてまいりました。

新たな清水みなとまちの発展を願い、国土交通省の「日の出埠頭大型客船受入環境整備事業」の工事ボードを活用して「未来を創るアートプロジェクト」を行います。

ご参加をお待ちします
参加費無料

市民、清水港に訪れ国内外から訪れた多くの皆様から、清水港の印象や感想、清水港への思い、未来に向けたメッセージを募集！！

清水港日の出岸壁白色のテント内にお越し下さい

寄港

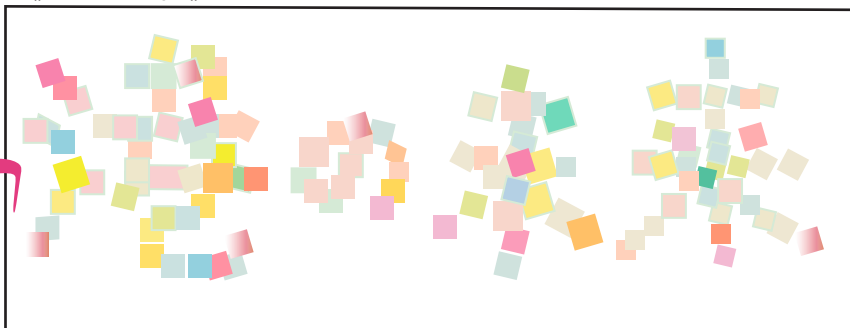


当日は、大型客船「ダイヤモンド・プリンセス」号（7時～16時）が寄港します。



白いテントブース

《イメージ図》



皆様から寄せられたメッセージは、後日ボードデザインされます。活動の様子や完成作品は、「清水港・みなと色彩計画推進協議会」ホームページに掲載します。（8月上旬予定）



主催：清水港・みなと色彩計画推進協議会

協力：鈴木建設株式会社・国土交通省中部地方整備局清水港湾事務所

お問合せ 清水港・みなと色彩計画推進協議会事務局（静岡市清水港振興課）

Tel:054-354-2432 Email:shimizukou@city.shizuoka.lg.jp

文部科学省
地(知)の拠点
To-Collabo

To-Collabo
東海大学の地域連携トコロ

平成28年度 清水港日の出岸壁(-12m)改良工事 工事概要

工事内容

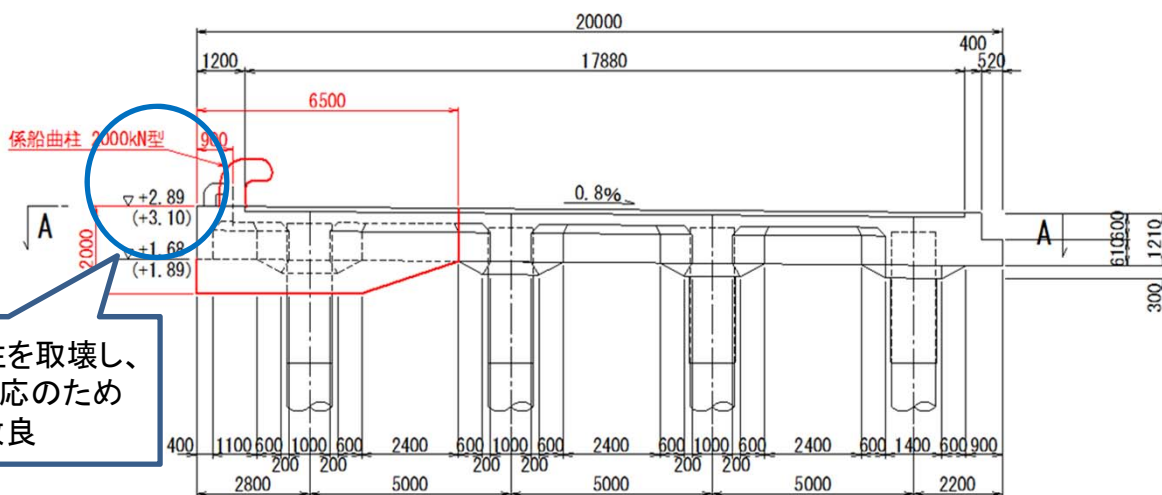
係船曲柱撤去 35t型 4基、70t型 2基
係船曲柱新設 200t型 6基

工事施工者: 鈴与建設(株)
現地着工: 平成28年7月中旬
完成予定: 平成29年3月

● : 曲柱改良箇所



-平面図-



-断面図-



-完成イメージ-



-八代港の例-

生産性革命
by インフラ
第4次重点計画



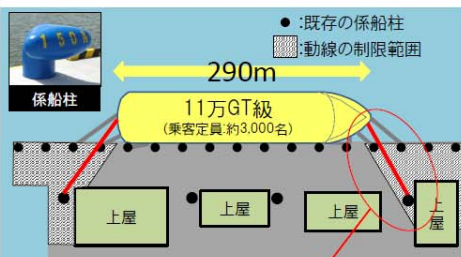
大型クルーズ船の受入環境改善(清水港)

世界最大級のクルーズ船の受入れを可能に

現在 now

将来 future

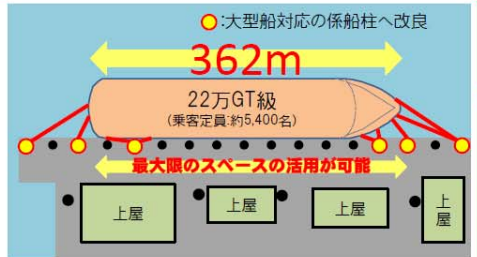
インフラ



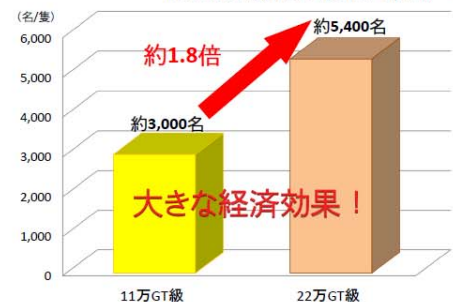
■係船柱70tと150tを併用状況
網取りのため、背後ヤードに
使用制限が発生

係船柱の大型化

既存岸壁を活用し
受け入れ機能の強化を可能に

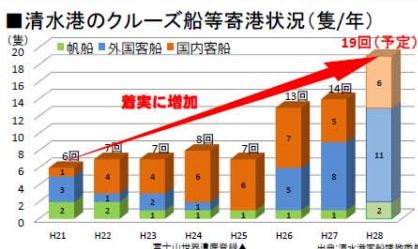


■クルーズ船の大型化
による乗客定員の変化(名/隻)



大型クルーズ船寄港1回での来訪者数(乗員客数)が増加、寄港地における観光消費の増加など、大きな経済効果が期待される

地域



大型クルーズ船に対応した岸壁の整備により、大型クルーズ船の寄港が増加、経済波及効果は約8.3億円/年!(H26)

■更なるクルーズ船誘致のため、地元による、さまざまな歓迎イベント等を実施。



平成28年度 完成予定

富士山の世界文化遺産登録後の平成26年度に、前年の2倍のクルーズ船が寄港し、平成27年度は更に増加

係船柱の大型化で、急増する大型クルーズ船に対応

新たな寄港需要に対応することで、地域経済に貢献

